

第4章 取り組むべき課題とその取り組み方法

第4章では、村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会で出た意見をもとに村が行うべき施策を取りまとめました。

森林に対するニーズが多岐に渡ることから、1. つくる 2. つかう 3. つなぐ の3つに分類し、構成しています。

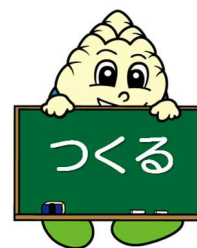
分類	施策
つくる	目標林型・ゾーニングの設定
	整備計画・ガイドラインの作成
	着実な樹種転換の実施
	被害木・危険木の巡視と処理
	看板・ベンチ等の施設整備
つかう	原木活用の方針検討
	公共施設等の木質化
	木育の推進
	森林空間の活用検討
	赤松の小屋など付属施設の活用
	森の資源・空間利用のルールづくり
つなぐ	情報発信の強化・統合
	学校の森林教育のサポート
	地域住民主体の組織の立ち上げ検討



4-1 森をつくる

(1) 現状と課題

松枯れによって衰退が危惧されるアカマツ林から他樹種への転換をうたった「大芝村有林整備基本計画」を令和2年6月に策定しました。基本計画では、将来めざすべき具体的な森の姿については、「村民を主体とした検討」を行い決定することとされています。



村民や利用者のニーズを反映するため、アンケート調査や大芝高原森林づくり協議会による検討を踏まえて、目指す森の姿「ゾーニング・目標林型」を設定し、本実施計画に掲載しました。

これを実現し持続的に管理していくために、多様な主体が協働して実践していく必要があります。

(2) 目指す姿

○実施体制

- ・村民・利用者のニーズを反映したゾーニング・目標林型が設定されている。
- ・目標林型を実現するための整備計画・ガイドラインが策定されている。
- ・多様な主体により、整備計画・ガイドラインに沿った整備が実施されている。

○森の状態

- ・松枯れ被害への対応が迅速に行われ、被害の急激な拡大が抑えられている。
- ・安心・安全で、誰でも楽しめる、ニーズに合った森・施設配置となっている。

(3) 具体的な施策

① 目標林型・ゾーニングの設定

【事業内容】：今後森づくりをしていくうえで必要となる、目指すべき森のかたち（目標林型）と、その配置（ゾーニング）を明らかにします。

現在の森の状態のほか、村民・利用者のニーズを反映して設定します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）

【実施期間】：R6年度～R10年度

【成果指標】：大芝高原全域の目標林型・ゾーニングの設定



できるだけ現存する木を活かしながら松枯れ対策・樹種転換を進めることで、森の魅力や利用を損なわず、自然度の高い森をつくることができます。



② 整備計画・ガイドラインの策定

【事業内容】：目標林型を達成するために「いつ・どこで・どのような整備をしていけばよいか」を記した整備計画を策定します。次の森をつくるための植栽・保育作業や、日常的な公園管理としての刈り払い作業も含まれます。それぞれの整備が目的に沿ったものとなるよう、伐採や刈り払いのガイドライン（作業指針）を策定します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）・南箕輪村開発公社

【実施期間】：R6年度中（整備計画は本実施計画に掲載）

【成果指標】：整備計画の策定、伐採ガイドラインの見直し、刈り払いガイドラインの策定

！ワンポイント

伐採方法については、現存する広葉樹の保残などを定めた伐採ガイドラインを令和4年度に策定済です。場所によって刈り払い方法を変えることで、山野草を楽しんだり、多様性の高い森をつくったり、生物の生息環境を豊かにしたりすることができます。

③ 着実な樹種転換の実施

【事業内容】：まだ松枯れに感染していないものを含めてアカマツを伐採し、他の樹種へ転換していきます。村発注業務により整備計画に沿って着実に樹種転換を進めます。伐採にあたっては、ガイドラインによるほか、伐採業者との打合せ協議を密に行うことで、必要な木を残すなど景観に配慮した整備に努めます。樹種転換にあたっては、植栽によるだけでなく、エリアによっては自生する広葉樹等を活用することで、多様で自然に近い森づくりを進めます。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）

【実施期間】：R6年度～R12年度

【成果指標】：樹種転換の実施面積

！ワンポイント

散策路等に近い場所では「木陰」が重要であるため、現存する木の保残に特に留意します。道から見えない場所では、小規模に面的な伐採を行うなどして、効率的かつ多様な環境を創出する整備を進めます。広葉樹を育成する場所では、アカマツだけでなくヒノキの間伐も進め、次世代の木の成長に必要な光環境を整えていきます。

④ 被害木・危険木の巡視と処理

【事業内容】：点在する松枯れ被害木については、被害拡大防止や安全対策の観点から、村と南箕輪村開発公社が協力して定期的に巡視し、迅速に処理します。巡視・処理に関する役割分担、連絡体制、データ管理方法を整理し、漏れなく迅速に対処できる体制を構築します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）・南箕輪村開発公社

【実施期間】：R6年度～R12年度、(役割分担、連絡体制、データ管理方法の整理はR6)

【成果指標】：松枯れ被害木の対処率（処理本数／発見本数）



！ワンポイント

松枯れ被害木を放置しておくと、周囲のアカマツへ感染が広がってしまうほか、落枝による散策利用者の事故の危険もあります。また、枯木の伐採は技術的にも難しく、伐採作業者のリスクも高まります。

⑤ 看板・ベンチ等の施設整備

【事業内容】：村民アンケートで意見の多かった案内看板やベンチを増やし、はじめて来る方や、高齢の方でも安心して楽しめるようにします。

セラピーロードについても誰もが利用しやすいように管理、修繕を行います。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）・南箕輪村開発公社・学校・地域住民等

【実施期間】：R7年度～R12年度

【成果指標】：整備箇所数

！ワンポイント

看板、ベンチ、ウッドチップ舗装などについては、学校や地域住民との協働による整備も検討します。

4-2 森をつかう

（1）現状と課題

100年以上昔から先人たちの努力によって育てられてきたアカマツは、保育園の園舎や中学校の学習机天板、給食センターの一部等に利用されています。また、令和6年度からファーストイ事業としてアカマツ材を活用したおもちゃの配布も行っています。



木材以外の資源に目を向けると、みんなの森は山菜や昆虫などを採取できる森として大きな特徴がありますが、あまり使われずに眠っている資源もあれば、過剰な採取も見られる資源もある状態です。

場所・空間としての森も大きな資源で、多様な用途で森を楽しみたいというニーズもありますが、現状の多くはウォーキングやランニングにとどまっており、多様なニーズを実現する仕組みがありません。利用者からはリラックスしたり学んだりする場所が欲しいといったニーズがある一方で、林望台や赤松の小屋など、あまり活用されていない施設もあります。

（2）目指す姿

○木材利用

- ・伐採した木が有効に活用され、村の財政に貢献している。
- ・将来にわたって村民の目に触れる場所で、大芝高原の木材が使われている。

○空間利用

- ・多様な主体により、多様なニーズに沿う形で空間としての森林利用が行われている。
- ・現在ある施設が有効に活用されている。



(3) 具体的な施策

① 原木活用の方針検討

【事業内容】：アカマツの活用方法について、村民アンケートでは「材として市場に出荷し村の財源に充てる」という回答が最も多くなりました。アカマツ、その他ヒノキや広葉樹を含め、有識者・関係者と協力し、有効な活用方法を検討します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）

【実施期間】：R7年度～R12年度

【成果指標】：－



大芝高原のアカマツは大径、通直、節の少ない希少な資源で、過去には県外で高値取引されたり、諏訪大社の修繕に寄贈されたりしたこともあります。

② 公共施設等の木質化

【事業内容】：村民アンケートでは「村の公共施設の木材として利用する」という回答が多くありました。公共施設の木質化などにより、村民が大芝高原の木を身近に感じる環境づくりに努めます。

また、「南箕輪村木材利用推進方針（2019年最終更新）」を「都市（まち）の木造化推進法（2021年）」に適合する形で改正し、公共建築物以外でも木材利用が進む体制を構築します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課ほか）

【実施期間】：R7年度～R12年度（南箕輪村木材利用推進方針はR7までに改正）

【成果指標】：公共施設での木材利用実績、建築物木材利用促進協定等の取り組み状況



大芝高原のアカマツについてはこれまでも「給食センター」や「役場のカウンター」、「中学校の机天板」等で活用されてきました。今後も特に村民の目に触れやすいところで、積極的に活用していきます。

③ 木育の推進

【事業内容】：現在実施している大芝高原の材を使用した食育箸、ファーストイのプレゼント等を継続的に実施し、木育を推進します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課ほか）

【実施期間】：R6年度～R12年度

【成果指標】：配布個数



事業を継続するだけでなく、随時見直しも行います。



④ 森林空間の活用検討 ・ ・ ・ つなぐ③と関連

【事業内容】：村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会では、森林の活用について様々な意見がありました。ニーズを反映し、森の資源・魅力を活かした森林体験を提供します。季節にあわせて多様な森の楽しみ方を発信していきます。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課、健康福祉課、教育委員会）、地域住民

【実施期間】：R6年度～R12年度

【成果指標】：イベント・講座の開催回数



野鳥観察・植物観察、山菜・果実の味を楽しむ、植物の香りを楽しむ、クラフト、どんぐりを拾って森づくり、森ヨガ、森の音楽会など、歩くだけにとどまらない森林体験を提供します。

⑤ 赤松の小屋など付属施設の活用

【事業内容】：休憩やイベントに活用できるよう、赤松の小屋の利用方法を検討します。林望台やかたらい亭については、ニーズにあった形で活用できる方法を検討します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）

【実施期間】：R7年度～R12年度

【成果指標】：－



アカマツ小屋についてはビジターセンターや、子どもの学び・遊びの場としての活用を希望する声が多くあります。

⑥ 森の資源・空間利用のルールづくり

【事業内容】：「みんなの森」における資源採取や利用のあり方は「南箕輪村信州大芝高原みんなの森設置条例」および「南箕輪村信州大芝高原みんなの森管理規則」で定められていますが、みんなが心地よく持続可能な利用をしていくために、ルールを見直し、周知します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）、森林協議会

【実施期間】：R7年度～R9年度

【成果指標】：－



森林協議会などで検討しつつ、山菜・昆虫などの資源利用、林内への立ち入り、犬同伴のマナーなど、みんなが合意できるルールを目指します。



4-3 森とつなぐ

(1) 現状と課題

全国的に見ても珍しい様々な魅力をもった大芝高原の森ですが、地域の中でも「大芝高原の森に行ったことがない。そもそも大芝高原に森があることを知らない。」など、森とかかわるきっかけがない方も多くいます。

森に関心があったとしても、「どうやって森を楽しんだらよいのか分からない。もっと森について学びたい。」という方も多いです。

大芝高原の森が大好きで、「みんなに魅力を伝えたい。もっと良い環境にしていきたい。」という方もいらっしゃいますが、なかなか実践する機会がないのが実態です。



(2) 目指す姿

○きっかけづくり

- ・地域みんなに、大芝高原の森の魅力が分かりやすく発信されている。
- ・地域みんなが森にかかわり、興味をもつキッカケが様々な形で用意されている。

○情報発信・学びの場づくり

- ・森に興味を持った人が、楽しんだり、学んだりする機会・環境が用意されている。

○協働

- ・森づくりや利活用、魅力の発信に、地域みんなが協働・参加する機会がある。

(3) 具体的な取り組み

① 情報発信の強化・統合

【事業内容】：ウェブサイトやSNSを活用し、大芝高原の森に関わる様々な情報が一元的に得られるようにします。村の広報誌でも、様々な森の魅力や情報を発信していきます。

また、村民アンケートではクマの出没に対する不安の声が多くありました。安全対策の一環として、クマの目撃情報、その他スズメバチの注意喚起等の安全に関する情報を発信します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課、健康福祉課、教育委員会）、南箕輪村開発公社

【実施期間】：R7年度～R12年度

【成果指標】：村報掲載回数、SNS 発信数



SNS ではタグ付け等により地域住民も情報発信できる体制をつくります。大芝高原の森の歴史や自然、現在すすめている村の取り組みなどを展示するビジターセンターの設置についても検討します。

② 学校の森林教育のサポート

【事業内容】：学校からの要望に応じて、大芝高原の木や森に関する学び、森をつかった学びをサポートする体制を整備します。また、学校から要望があった場合は村から木材を無償提供します。

講師派遣にあたっては、みどりの少年団出前講座、学びと育ちの森づくり事業、信州環境カレッジ、郷土愛プロジェクトなど、国、県、民間の各種支援制度を活用します。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）、教育委員会

【実施期間】：R6年度～R12年度

【成果指標】：木材提供量、講師派遣回数



小学校5年生の「森林・林業」をはじめ、森に関係する単元は多くあります。また、「森と算数」など一見関係なさそうでも、実体験を通して学ぶことで、深い学びが得られるかもしれません。

③ 地域住民主体の組織（おおしば森部）の立ち上げ検討

【事業内容】：おおしば森部（仮）と称し、地域住民が主体となって森で活動を行う組織の立ち上げを検討します。村は、情報発信や国・県の補助事業の検討等、森部の活動をサポートし、複数団体の活動時に双方の利害が衝突しないよう留意し、調整を行います。

【実施主体】：南箕輪村（観光森林課）

【実施期間】：R7年度～R12年度

【成果指標】：－



村発注の業務では手が届かない部分を地域の皆さんの助けを借りながら、より良い森を目指します。森部の活動例：森林整備、環境整備、自然観察、希少植生の保全、木材利用、教育学習など森を楽しむ活動や森をいかす活動。